



東京工芸大学・風工学研究拠点・研究集会（2025年2月25日）のご案内

実街区における非定常条件下の 通風気流性状に関する研究集会

2003年の建築基準法改正による換気装置設置の義務化に加え、昨今では新型コロナウイルスの感染防止のため、居室内の積極的な換気が求められています。2003年以前に建設された住宅の多くは換気装置が設置されておらず、この場合、自然換気に対応することになりますが、この時の通風量は屋外風向および風速を境界条件とする定常計算で求めることが一般的に行われています。しかしながら、屋外の風向および風速は時々刻々変化し、これに伴って居室の換気量および室内の気流性状も変化することから、定常状態で求める換気量は実態とは異なることが考えられます。そこで、室内気流測定を風洞実験とCFD解析の2つの視点から比較を行い、定常状態と非定常状態の違いを把握しました。

今年度の研究成果として、風洞実験を使用し屋外風向および風速が変化している場合（非定常状態）と安定している場合（定常とみなせる状態）の室内気流性状の再現を行い比較、さらにCFDを用いて整合性を確認し風向変動時の非定常解析の有効性を報告すると共に、今後取り組むべき課題を確認することを目的として、研究集会を開催することといたしました。今後、様々な研究についての最新の研究成果についても情報を共有し、様々な視点から通風のさらなる有効利用について検討を進めたいと考えます。一連のテーマに関心をお持ちの皆様にご参加いただきたく、ご案内申し上げます次第です。

と き： 2025年2月25日（火）10:00~

ところ： オンライン(zoom)開催

<https://tus-ac-jp.zoom.us/j/96080518762?pwd=U0swEccPA6pXCphxqOH8oYsNlbnuu.1>

問合先： 東京工芸大学 工学部建築学科 准教授 山本 佳嗣

電話：046-242-9548 E-mail： y.yamamoto@arch.t-kougei.ac.jp

東京工芸大学風工学研究拠点 研究集会

実街区における非定常条件下の 通風気流性状に関する研究 プログラム

10:00-10:05

開会挨拶, 趣旨説明

倉渕 隆 (東京理科大学 教授)

10:05-10:25

RANS を用いた非定常の室内気流予測に関する研究

石川 穂 (東京理科大学)

10:25-10:50

RANS を用いた風向変動時の非定常解析の精度評価と有効性に関する研究

河野 晃斗 (東京理科大学)

10:50-10:55

閉会挨拶
